

# 子育て支援の具体化を確実に

～おのぞら議員一般質問で提起～

前号につづき3月定例議会におけるおのぞら議員の一般質問  
について紹介します

## 入学準備金の支給を 2～3月に

就学援助の入学準備金問題では、近年、従来の7月頃支給を改め実態に即して2～3月に支給する例が多くなつてきている。当市でも支給時期を早めるべき。支給額についても現行の2万円前後では準備できないので大幅に増額すべき、と質しました。

教育長は、「今年度から中学校の新生入学生に対しては2月末に支給した。支給額については単価が引き上げられる見込みであり、他市の動向を見ながら検討して参りたい」と答弁。

入学準備金の国の援助  
単価 2倍に

小学生	20,470円→40,600円
中学生	23,550円→47,400円

おのぞら議員は、小学校入学生に対しても収入認定は保育園入園、制度についても入学準備の説明会等で説明でき、実施可能と質しました。

教育長は、「小学校入学者の前倒し支給についても

## 子どもの医療費 助成拡大について

研究・検討したい」とのべました。

市長の施政方針演説では、子どもの医療費助成については昨年8月より未就学児に対して現物給付方式による助成を実施しているが、今後も子どもの健康の保持増進が図られるよう助成範囲の拡大や助成方法について検討していくとのべています。その具体化として、県単独医療費助成制度の所得制限を撤廃すること（所得制限を設けているのは県内33市町村中久慈市の他4市のみ）。現在、小学生の外来、中学生の外来、入院は2分の1だが助成を拡大すべきと質しました。

市長は、「所得制限の撤廃には新たな財政負担が生じることから他自治体の動向を見ながら検討して参りたい。子供の医療費助成の拡大については国・県の財政支援を要望するとともに他市町村の動向なども情報収集し助成拡大について検討していく」とのべました。

（子どもの医療費無料化のためには小学生分で1000万円、中学生分で400万円が必要と予算特別委員会で答弁。）

## キッズルームの 利用料軽減すべき

市民体育館の幼児体育室「キッズルーム」の利用料は310円で、日常的に利用するには負担が大きいという声がある。その一方、利用状況は月に30人前後と少なく施設の有効利用の面では問題がある。ランニングデッキ（100円）同様の料金とするなど軽減すべきと質しました。

教育長は、「利用者にとって割高感があるとの指摘を頂いており、親子で気軽に利用できるスペースとして利用しやすい料金設定について検討する

とのべました。

## 学校給食費の 無償化・軽減化を

世帯収入が伸び悩む一方、教育費は増加傾向にあります。保護者の経済的負担を軽減し子育てを支援しようと、学校給食費の無償化や助成をする自治体が全国で419市町村に及んでいる。当市としても検討すべきと質しました。

教育長は、「無償化軽減している自治体が増えていることは認識しているが、無償化した場合必要額は1億3千万円程と見込んでおり、現在のところ実施は困難と考えている」と答弁しました。

## 国保事業の 県運営化に関して

国民健康保険事業が来年度から市町村運営から県運営に移りますが、当初一部にあつた県が全面的に財政上も運営上も責任をもつ完全移行ではないようです。県に移す目的は何か。運営責任はどこが担うのか。これまでのように国保事業会計へ一般会計からの繰り入れは制度上どうなるのかと質しました。

市長は、「国保事業の安定的な財政運営や効率的な事業の確保を目的に県が国保の運営に中心的役割を果たすことになる。運営は、県が財政運営の責任主体となり、市は資格管理、保険税の賦課徴収と保険給付などの事務をすることに。一般会計からの繰り入れについては解消、または削減にむけて計画的な取り組み方を定めることとされている」と答弁。

おのぞら議員は、一般会計からの繰り入れを辞めた場合の国保税の負担額はどのくらい上がるかと質しました。

市長は、「現在、その試算はしていない」と答弁しましたが、後日の予算特別委員会で、1世帯当たり8358円、1人当たり1万4155円、国保税が上がるとの試算を答弁しました（H27）。

以上



城内 仲悦

久慈市寺里 Tel.52-2892



小野 寺勝也

久慈市小久慈町 Tel.53-1828